

Truth

[トウレース]

富山のスポーツの
真実を伝える

2020夏号
Tスポとやま
¥0 Takefree

富山初のスポーツマガジン

VOL.22

ひのき舞台を夢見て
今こそ自分を磨く

重量挙げ
村上 英士朗

競歩
山崎 勇喜

スポーツクラブ

COO BIG

スポーツ振興くじ助成事業

Copyright: JAPAN SPORT COUNCIL

富
富
富
富

ふ ふ ふ

ほほえむうまさ、富山から。

うまみ。あまみ。ふと香る。

ほおぼる幸せ。

富山米

JA全農とやま



Truth

[トールース]

VOL.22 富山のスポーツの真実を伝える
夏号

ホームページもご覧ください!!

EISHIRO MURAKAMI

YUKI YAMAZAKI

TAIJIRO MORI

TAKESHI FUJITA

SATOSHI SAEKI

TOYAMA
SPORTS
MESSAGE BOARD

SPECIAL FEATURES

- 02 ウェイトリフティング・村上英士朗
五輪は「世界一の力持ち」への通過点
「いちご」へ移籍し、三宅親子に教える
- 04 競歩・山崎勇喜
つらい練習も目標を決めてやると楽しい
富山の「未来のアスリート」へエール
- 06 元カターレ富山・森泰次郎さん
技とスピード重視 「ドイツ型」指導
富山に「ミュンヘンサッカー学校」
- 08 都市対抗野球で優勝・藤田剛士さん
リリースポイントを「キレダス」で体得
- 09 富山大学人間発達科学部・佐伯聡史准教授
「コロナ禍の体験」生かして。無理は禁物
- 10 野球
富山GRNサンダーバーズ
座席を指定、応援は拍手のみで有観客試合
- 12 サッカー
カターレ富山
過酷な連戦 チームの総力で挑む
- 14 富山のスポーツ伝言板
コロナ禍時代の行動指針/アランマーレ
※皆様からの耳寄り情報お待ちしております!

弾けるアイデア
固まる信頼

ゆるみ止め加工されたネジ、ボルトは
こんなところにも使われています

NISSEI TECHNICA
株式会社ニッセイテクニカ
www.nissei-tc.com

お好きなポイントが
たまる!つかえる!



便利 ファミペイ からも、たまる!つかえる!

たまる 200円[※]で1ポイント つかえる 1ポイント→1円相当

＼お買い物さらに便利に!/
お使いのポイントカードをファミペイに登録しよう!



ファミペイ 会員募集中 今すぐダウンロード!

FamilyMart ファミリーマート 検索

問合せ先/ファミリーマート富山東営業所・富山西営業所・高岡営業所 Tel.076-422-9575

県内のファミリーマートで「Truth」を配布いただいています!

「Truth」の配布にご協力いただいている店舗・事業所などは次の通りです

あおき接骨院、KHEIR(ケイル)、スポーツドームエアーズ、ボンジュールSAKATA富山駅前店、いっぽ堂、スポーツショップランナー、ノン・ビリィ、山内武道具店、カフェ ジャック ラビット スリムス、アピアスポーツクラブ、西能病院、JSS富山インドアテニススクール、ビッグエッグ、ベースボールハウスMVP、すき焼 はやし、バイエルンスポーツ、松長接骨院、竹接骨院、奥田接骨院、原接骨院、ヘアーサロンみずほ、いなみ木彫りの里 創遊館(道の駅 井波)、ねむり家、MUSCLE GYM TOKYO富山店、娘娘餃子、ステーキすず屋、高岡ワイン倶楽部、LIXILリフォームショップ ユニテ、Mag Haus、カフェ ゴッコ、ハウディーキオスクマーケット1931、ゴールドカレー富山豊田店、遊さん、万里摩理(マリーマリー)、Trattria La Luce、浅川接骨院、寿司正、榎カフェ、おき接骨院、村上接骨院、ヤマヒデホーム、らんぶる、スポーツ&コンディショニングセンターPOSS.、山田書店、富山空港内の喫茶Wingとカードラウンジらいちょう、らーめん菜館はじめ、moohno(モーノ)、山町茶屋、こやま接骨院、香華楽、坂野上満税理士事務所、ベースボールハウス スタジアム、富山カイロプラクティック研究所、おざわ歯科医院 (順不同)

このほか、富山県内のスポーツ・文化施設、公共の窓口、スポーツ団体の事務局、総合型地域スポーツクラブの事務局などで配布いただいています。NPO法人Tスポとやまは、「Truth」の配布にご協力いただける事業所・店舗などを随時募集しております。

富山発のスポーツメディア

Truth

NPO法人 Tスポとやま 富山初のスポーツマガジン「Truth」発行・運営
TEL:080-3461-5959 E-mail:nisennen@tspotoyama.com
ホームページ:http://tspotoyama.com/ Facebook:https://www.facebook.com/tspo.truth

「世界一の力持ち」になるための通過点

ウエイトリフティング・村上英士朗

五輪は

た。ライバルがいて、そこで勝りたいと思っていました。だから、本当につらいだろうと思います。

三宅宏美さんに学ぶ

——今年1月に銀盤酒造(黒部市)を退社し、4月から不動産業の「いちご」(東京)に入社されたね。同社ウエイトリフティング部所属となりました。

ライバルがいる東京を拠点に練習したいと思うようになり、世界トップクラスの選手と練習できるのはいい刺激となります。NTCの近くに住まいとしました。これまでも環境を変え、ことで、気持ちがマンネリにならないようにしてきました。ロンドン・リオ五輪のメダリストである三宅宏美さんから学ぶところは大きいです。



「東京五輪に出ます」

新たな環境で、練習量と質は上がりました。三宅さんの父で「いちご」の監督でもある三宅義行さん(日本ウエイトリフティング協会会長)からは、「とにかく世界で活躍しろ」「五輪に出ないと意味がない」「五輪に出たいではなく、

「出ます」と言え」と言われたので、取材ではあえて「東京五輪に出ます」と言っておきます。

——その東京五輪が1年、延期となりました。新型コロナウイルスの感染拡大によりですが、どんな思いなのでしょうか。

新型コロナは「仕方ない」と思うしかありません。五輪の代表選考は毎回、ぎりぎりになりますので「1年間延びて、猶予がある。それまでに世界との差を縮められればいい」と前向きにとらえています。

日本記録更新を

——1年後の本番に向けてのプランをお聞かせください。

この調子で記録を更新し、日本

記録を塗り替えない。東京五輪の出場権を得るには10月から来年4月までの間に国際大会でポイントを取る必要がある。現時点で出場できるかは五分五分だと思えます。スナッチ、ジャークとも5キロずつ、更新したいと思っています。

——最後にあらためて東京五輪への思いをお聞かせください。

必ず出場し、メダルを獲ることを目標にしています。パワーがまだ足りない、いっばい食事することを。そして、ちゃんと休むこと。それしかない。と思っています。「世界一の力持ちになる。そのために五輪があり、東京五輪は通過点」。そう、自分に言い聞かせています。

新型コロナウイルスの感染拡大で全国に緊急事態宣言が発令され、多くのスポーツ選手が活動自粛に追い込まれた。ウエイトリフティングの村上英士朗選手は、東京のNTC(ナショナルトレーニングセンター)で練習していたが、3月下旬に富山へ戻った。東京五輪も1年延期となり、今まで経験したことない事態にどう向き合っていたのか。6月、部活動が再開された母校・滑川高を訪れた村上に聞いた。

聞き手・文 松井 克仁
写真 若林 朋子

むらかみ・えいしろう 1995年8月生まれ、富山市出身。滑川高、日大卒。高校時代は2011年、13年と全国高校総体の105キロ超級で優勝。18年全日本選手権105キロ超級優勝。19年同選手権109キロ超級優勝。同年W杯の109キロ超級でスナッチ(S)185キロ、クリーン&ジャーク(J)231キロ、トータル(T)416キロの日本新記録で優勝。自己ベストはS188キロ、J231キロ、T419キロ。今年4月から「いちご」所属。178センチ 140キロ。

——コロナ禍の中での練習はどうしていたのですか？

恩師である佐藤公治滑川高監督の協力により、知人が貸してくれたガレージで練習していました。1人だと、トレーニングしかできないので、モチベーションが保てず、思い切った記録に挑戦することができませんでした。ただ、試合まで時間ができたので、一から基礎を固めて記録を伸ばしていこうと。今まで以上に筋力トレーニングをやれたので、フィジカルの面では成長できていると思います。

見られて頑張れる

——1人で練習することは、自身にどんな影響がありましたか？

ウエイトリフティングは個人競技です。しかし、みんなと練習できないと、モチベーションが上がらず辛かったです。「応援されてこそ、(バーベルを)挙げられるのだ」と、あらためて思いました。やっぱり1人だけではできない。自分自身、見られていると頑張れるタイプ。だから、無観客の試合だと気合が入らないでしょうね。

——全国高校総体(インターハイ)が中止になりましたね。

後輩たちは悔しいと思います。高校生はインターハイで活躍することがすべてだと思って頑張っています。自分もそうです。

メダルを獲る

素質は十分ある

滑川高・佐藤監督

「いちご」に行きたいと言いつたのは本人からです。常に世界を意識して練習したいの思いがあったので、しょう。中学時代から彼を見ていて、トータル400キロを超えたところに「もっと世界で活躍したい」という思いが芽生えたように感じます。大学生3年ころから自分でよく考えて練習するようにになりました。社会人になっても常に世界レベルを念頭に置いて練習し、成長し続けました。



昨年末から記録が伸び、12月に中国で開催されたワールドカップ(W杯)で優勝しました。その勢いで行きたかったはずですが、東京五輪が1年延期となりました。しかし、これからの力を蓄えられる利点もある。五輪でメダルを獲る素質は十分あると思います。メダルまで近道も遠回りもない。毎日、一生懸命練習するしかない。トータル430キロになればメダルが見えてきます。東京五輪をステップとし、パリ五輪でも期待しています。

つらい練習も目標を決めると楽しい 昨日の自分と勝負する気持ちで



やまざき・ゆうき 1984年1月生まれ、富山市出身、36歳。富山商高で長距離から競歩へ転向し、2001年9月に5000メートルで日本高校新をマークするなど頭角を現わす。順大、長谷川体育施設を経て2011年から自衛隊体育学校。アテネ以降、3大会連続で五輪に出場し、08年の北京五輪50キロでは日本人初となる7位入賞。世界陸上は05年、07年、09年、15年と4度出場。日本選手権50キロでは04～10年の7連覇を含め8度優勝した。自己ベストは50キロが3時間40分12秒(09年)、20キロは1時間20分38秒(03年)。

競歩の山崎勇喜選手が、2020年3月15日に石川県で行われた全日本競歩能美大会を最後に引退した。アテネ・北京・ロンドンと3大会連続で五輪に出場し、世界陸上への出場は4回。男子50キロで4度、日本最高を更新した。21年間の競技人生を振り返って何を思うのか？大会前日に開催予定だった「未来のアスリート発掘事業」講演会が、新型コロナウイルスの感染拡大により中止となったため、富山の若いアスリートへのエールも合わせて話を聞いた。

聞き手・文・写真 若林 朋子

「未来のアスリート」へエール

競歩・山崎勇喜選手、21年の現役生活を振り返る



◆残り1周、涙が出た
——引退レースでは家族や仲間の応援を受けてゴールし、胸に迫るものがあったのではないのでしょうか。
21年間、応援してくださった皆さんに感謝を込めて歩きました。1時間46分18秒で最下位の53位。歩き切ることが目標でしたから納得です。残り1周、涙が出ましたね。拍手がすごくて。終わった後、若い選手やいろんな人と一緒に記念写真を撮ったこと、うれしかったです。

◆「誘導ミス」で注目

——山崎選手といえば2007年9月の世界陸上大阪大会での「誘導ミス」です。序盤から先頭争いを繰り広げ、規程の周回数を1周残して陸上競技場へ入ってしまった。途中棄権となりました。アクシデントがなければ8位入賞の可能性もあったはずですが、当時の山崎選手は「入賞は無理だった。審判を責めるつもりはない」と発言し、その潔さが注目を集めました。

インタビューでは本心を言っただけです。体力はギリギリ。順位が落ち、ペースダウンしてしまいました。しかし、あの大会後、周りの目が変わりました。練習していると「頑張ってください」と言われるようになりました。

◆3度の五輪出場

——アテネ・北京・ロンドンと3度の五輪出場、振り返ってそれぞれどんな思いがあるのでしょうか？

初出場のアテネでは50キロで16位。力を発揮できたと思います。後半に警告を2つももらったので、(3回で失格となることから)スピードを抑えましたが、結果には満足しました。

北京ではメダルを目指していたので悔しかったです。50キロで7位に入りましたけれど、実はレース中ずっと体調不良で、何とか歩き切ったという感じ。ラスト1周まで4位で混戦となり、最後に抜かれて7位になったのです。「ベストの状態だったら、どうだっただろう」と今でも思います。「メダルに届かな

くても4位になったのでは……」と。

3度目のロンドン五輪は右膝の故障を抱えたまま出場しました。ロンドンで失格になるまでは、フォームより速度を重視して歩くタイプでした。ロンドン五輪で燃え尽き、手術をして、けがが治ってからはフォームと向き合うことになりました。リハビリ中のアスリートや、トレーナーと出会い、その後は効率的の良い歩き方を目指したのです。

——競技人生のスタート、つまり競歩を始めたきっかけや、10代のころの思い出を教えてください。

富山商高に入学直後から故障ばかりしていて、山本(正樹監督)先生から「長距離はセンスがない」と言われて競歩へ転向しました。「競歩だったら花が咲くぞ」とも言われました。当時の僕は、それを褒め言葉だと分からなくて「長距離に戻りたい」と思っていました。けれど試合で谷井(孝行)選手についていくことができ、周りが評価してくれました。それで「とりあえず、やろう」と。そして7月上旬、富山県の国体予選で優勝し、「競歩の世界で生きていこう」と思うようになりました。

◆世界一になりたい

2000年シドニー五輪の女子マラソンで高橋尚子さんが金メダルを獲得しましたね。それをテレビで見ても「僕も世界一になりたい」と思いました。夢があったから辛い練習にも耐えられました。そういう自分、嫌いな自分がなりました。過食や拒食を繰り返して、「自分はメンタルが弱い」と悩む一方で、「自分にはこれしかない」と思っていました。



——富山の若いアスリートへ、エールをお願いします。

辛い練習でも目標を決めると楽しい練習になります。例えば、故障するとプールで黙々と何キロも泳がなくていけないでしょ。昨日よりちょっと速くとか、長く泳ぐことを目標に掲げ、昨日の自分と勝負すること。昨日の自分の殻を破る。そうすると単調な練習が、楽しくなります。東京五輪を目指す競歩界の後輩にはメダルを取ってほしい。日本勢が金メダルに輝く可能性は十分にあります。

◆いつか恩返しを

——今後の目標は？

一旦は競技から離れます。しかし、いつか恩返ししたいと思っています。自分は競歩に育てられました。成功ばかりではなく、苦労話とか失敗談が多い競歩人生でしたけれど、指導するにあたっては「ネタがいっぱいある」と思っています。

◇ ◇

インタビューに応じる顔は、晴れやか。引退レースの翌日にもかかわらず、取材の後には県総合体育センターでトレーニングに励んでいた。山崎選手の富山商高時代、炎天下でも、雪が降っていても黙々と歩き続けていた姿が、忘れられない。「自分にぴったりな競歩と出会い、自身を磨き続けることで人生は輝く」と教えてくれたアスリートだ。彼が積み上げたスキルを、後進の育成に役立ててほしい。できれば富山で。山崎選手、本当にお疲れ様でした。

技とスピード重視「ドイツ型」で指導

2010年、カタール・富山でプロサッカー選手としてキャリアをスタートさせた、森泰次郎さん。退団後はドイツに渡り、プレーを続けながら指導に当たった。帰国して地元・富山で指導者として歩み始めた。今、ドイツのサッカーを、どのような思いで指導しているのか。

聞き手・文・写真 土田 由香里

——まず、カタール・富山に所属したシーズンを振り返って、どう感じていますか。

「プロ」ということを学んだ時間でしたね。富山一高を卒業して、何もわからないまま入って。今になって思うのは、「もっとできたかなあ」ということです。レンタル移籍で佐川印刷SCに行った時は、「試合に出たい」と思いが強く、試合に出ることに選手としてやりがいを感じていました。

■富山に戻って主将に

——富山に戻ってキャプテンを任せられました。

戻ってきてすぐだったので驚きましたが、いい経験になると思って受けました。高校時代もキャプテンでした。高校の時はプレーで引っ張って行こうという思いでした。

——「地元選手」として期待は大きかったと思いますが、どう感じていますか。

プレッシャーというより、「応援していただいているな」と感じました。だから毎回、試合に出られないという状況は申し訳なかったですね。苦しかったです。

■海外のサッカー

——海外のサッカーを意識したのはいつからですか。

でサッカーに打ち込むことができました。

■富山が日本校第1号

——指導者になることは、いつから考えていたのですか。

カタール・富山を退団するところからです。「引退してもサッカーに携わっていきたい」と思っていて。「そうなる」と、指導者かな」と。そう思ってドイツへ行きました。

——富山に戻ってきて、スクールを開校されました。

いずれ富山でやりたいと思っていました。開校したのは「ミュンヘンサッカースクール日本校 (MFS JAPAN)」です。ドイツにもスクールはいくつもあって、自分の目で見ると、実際働いてみて、いいなと思ったのでそこで学び、開校させてもらうことになりました。富山が第1号で、全国に広げていきたいと思っています。

ドイツはフィジカル重視のスクールが多い中、MFSはテクニックにも重きを置いていて、スピードも加えて体得するという指導方針です。より実戦的で、試合に使えるテクニックを取り入れているのが特徴です。

幼稚園児から小学校6年生までが対象です。実際に参加している子どもたちの様子を見ていて、できなかったことができるようになっていく成長の早さを感じ



富山に「ミュンヘンサッカースクール」

小学校の時、英国遠征の選抜メンバーに選ばれました。あれが最初でしたね。高校でも選出してもらい「海外でサッカーをしたい」という思いは、ずっとありました。レンタル移籍の時も「できれば海外で」と思って探したんですが、うまくまとまらなくて。2015年シーズンが終わり「1人で行こう」と。何もない状態で行って、チームを探そうと思いました。

——行き先は、なぜドイツだったのですか。

2014年のワールドカップ(W杯)でドイツが優勝したでしょ。ドイツの選手育成システムが注目されていたんです。それと、日本のアマチュアリーグでやっているくらいの選手が何人もいると聞いていたので。

■ドイツで4年間過ごす

——ドイツでの生活はどうでしたか。

言葉は行けば話せるようになると思っていました。現地の語学学校で学び、帰るころには、日常の会話は理解できるようになりました。

トライアウトのような感じで練習に参加し、入ったのがドイツ5部リーグ。最初のチームは3部リーグの2軍だったので「活躍して3部以上に上がってやる」と思っていました。怪我也あって思うようにいかず、同じ5部リーグのチームへ移籍しました。アルバイトをしながらサッカーをする時もありました。約4年間、ドイツ

じます。

ドイツでもスクールで約1年間働いていましたが、その時は日本人の子にも個別レッスンをしていました。今でも、オンラインでトレーニングを見えています。

——スクールではどんな選手を育てたいですか。

まずはサッカーを楽しんでもらいたいですね。その先に将来、ドイツのプロリーグ・ブンデスリーガで活躍する選手やカタール・富山で活躍するような選手が育ってほしいなと思います。

■富山新庄クラブでプレー

——今も現役を続けられているんですね。

富山新庄クラブで続けます。ドイツで引退しようと思っていたのですが、最後に強豪チームとの練習試合で惨敗してしまい、「このまま終わるのは悔しいな」と思っていました。

ドイツで大きく成長し、指導者として歩み始めた森さん。子どもたちを指導するコーチであり、選手として子どもたちの憧れの存在として両立してほしいものです。新しいドイツチームのスクールのスタイルを地元・富山から全国へ広げていくこと、期待しています。

森泰次郎さん、海外経験を活かし

ミュンヘンサッカースクール 日本校(MFS)とは？

- 対象:幼稚園・保育園児～小学6年生(個別レッスンも受け付け中)
- 会場:TSCスポーツセンター(富山市秋吉 196-5)
- 代表:森 泰次郎

※情報は、MFSオフィシャルサイト、Instagramなどで発信している。申し込みはオフィシャルサイトの申込フォームより。



もり・たいじろう 1991年12月生まれ、富山市出身。28歳。富山北FCでは全国大会準優勝、富山一高校で全国高校選手権出場。2010年カタール・富山に入団。14年にJFL・佐川印刷SCへ期限付き移籍。15年、カタール・富山の主将に。その年シーズン終了後に退団。16年にドイツへ渡り、シュトゥットガルト・キッカーズU-23、ゾントホーフェン、FCイスマニングを経て帰国。MFS JAPAN開校。

リリースポイントを体感できる「キレダス」とは？



「キレのあるボールを投げたい」。野球をしたことがある人なら、誰もが思ったことがあるのではないだろうか。その思いを実現できるトレーニング器具を開発した元野球選手がいる。かつて高校、大学、社会人で投手として活躍した藤田剛士さんだ。「キレダス」の開発に至った経緯と思いを聞いた。

◇ 開発を思い立ったきっかけは？

現役を引退してから子どもたちに野球を教えるようになりました。ボールの投げ方について、自分の力が一番伝わる「リリースポイント」について映像を見せながら言葉で伝えていましたが、思うように教えられず、「何か道具でつたえられないか」と思っていました。

◇ 商品化するまでの経緯は？

リリースポイントをつかむ上で大事なな

聞き手・文・写真 松井 克仁

TDK時代に都市対抗優勝 藤田さんが開発



は「ボールを前で離す感覚」です。それは、紙飛行機を飛ばすのと似ています。これがヒントになりました。「前で大きく肘をあげて飛ばす」という意識を、実際にボールを持って体現する道具として、1年前に試作品を完成させました。

いろんな人に使ってもらう中で、手首しか使っていなかった子が全身を使って投げられるようになったり、ボールの回転が明らかにかわって手首が立つて低めのボールも伸びるようになったりするのを見て、「いける」と思いました。

社会人野球時代の先輩の津口竜さんに協力をお願いし、検証を重ねて今年2月に商品化へこぎつけました。今では何人かのNPB(日本プロ野球機構)の選手

もトレーニングの環で使うようになりました。

◇ 「キレダス」にどんな思いを込めて開発したのでしょうか？

キレを出すために「キレダス」という商品名になりましたが、まずは子どもたちに使ってもらって、いい投げ方を習得してもらいたいと考えています。全国的に見て富山は野球の技術に関する情報が少ないように感じるので、今までの経験を伝えて、投手の能力を少しでも伸ばしてあげたいと思います。

◇ 高校球児だった筆者も実際にキレダス

を使ってみた。自身は内野手で肘を痛めた経験があり、しばらく野球から遠ざかっていたが、藤田さんのアドバイスを受けながらキレダスでキャッチボール。最初は、まっすぐ球が行かなかった。「それは手首をきかせているから」と言われて意識すると、真っ直ぐに球が行くようになった。

その感覚でキャッチボール。最初、胸を目標に投げたボールは大きく上に逸れ、暴投になった。次に「膝を狙って投げて」と言われて投げると胸元にいった。初めてボールが指にかかる感覚を体感し、続けるとボールの回転数上がり、伸びが生まれた。「小学生のころに『キレダス』があったら、投手なれたかも……」と思うほど。効果を実感できた。



ふじた・たけし 1982年6月生まれ、38歳、高岡市出身。小学1年の時から国吉北斗ジュニアーズで野球を始める。中学時代は高岡シニア、高岡向陵高ではエースとして活躍、3年時に全国高校野球選手権富山大会でベスト8。富山国際大に進み、北陸学生リーグでベストナイン2回。社会人野球のTDKに入社し2006年都市対抗での優勝に貢献した。退社後は富山ベースボールクラブでプレー。現在は、キレダスを使用しながら野球の指導に携わる。

「コロナ禍の体験」生かして。無理は禁物

新型コロナウイルスの影響により、全国高校総体(インターハイ)、全国中学校体育大会(全中)、国体、全国高校野球選手権など主な大会はすべて中止となった。ひのき舞台を夢見て頑張ってきた中学・高校生運動部員の落胆は計り知れない。今、スポーツとどう向き合うべきなのか。スポーツ運動学が専門で、富山大学人間発達科学部の佐伯聡史准教授に聞いた。



佐伯聡史(さへき さとし) 1972年11月生まれ。千葉県出身。市立船橋高卒、筑波大学院体育研究科修士。高校時代は全国高校総体で体操種目別跳馬優勝。大学では全日本学生体操競技選手権個人総合4位に入り、学生ナショナルチーム入り。長野、愛知、茨城県のゴルフ場でプロゴルフ研修生として3年7カ月過ごした後、茨城キリスト教大助手を経て富山大学人間発達科学部講師。現在は准教授。同大体操競技部監督、体操競技器械運動のほか、ゴルフ、テニス、スキー、バドミントン、卓球の授業を担当。

佐伯聡史准教授に聞く

富山大学人間発達科学部

■気持ちを切り替えて

全国大会が中止になり、中高生は目標を見つげにくくなっていることでしょうか。とりわけ、3年生のシヨックは大きいと思います。学習の遅れを取り戻すために放課後や夏休みに補習が行われるでしょうから、部活動をする時間は限られ、不完全燃焼の思いを抱えて引退してしまう生徒も少なくないかもしれません。しかし、次を見据えた行動をするため、気持ちを切り替えてほしいと思っています。

プロ・実業団選手を目指したり、スポーツで大学進学を考えたりにいる生徒に対しては「どんな状況でも、できることをやるしかない」と伝えたいです。トップアスリートは緊急事態宣言の間も工夫して練習をしていました。まだ完全に「コロナ前」の状況を取り戻したとはいえませんが、鍛錬を続けた人が次のステージで力を発揮できるのです。

新型コロナウイルスで思うように練習ができなかった期間は、「自分と競技の距離感を見極める時間」になったはず。自分と向き合い、競技への思いを確認したこ



▲日本高野連、全国高体連のホームページ。全国大会中止の告知とともに、連盟の苦渋の決断や、高校生への激励などを公開

とでしよう。「早く練習したい」。強くそう思ったとしたら、あなたは本当にその競技が好きなのですか。その熱意を忘れず、これからも競技に打ち込んでください。

また、今は学業優先にならざるを得ない生徒も、人生のどこかのタイミングで、そのスポーツをする機会を見つけて続けてほしいです。

■さらなる感染対策を

今後については、感染しないよう今以上に、気をつけてほしいと思います。また、練習不足なので故障のリスクが高く、暑さや体が付いていかないかもしれません。無理は禁物です。

全国大会で実績を残し、進学就職を有利にしたいと考えていた生徒は今、不安を感じているかもしれません。プロに行くレベルであれば、高校の最後の大会に出場しなくても確実に声がかかるでしょう。NPB(日本プロ野球機構)やJリーグの球団スカウトは、早くから逸材を見いだし、チームに必要なと思う選手を獲得に動いています。

ただし、大学入試は選抜する側が頭を抱えていると思います。体育大学や実技(実績)試験の比重が高い学部の選考は、高校時代の全国大会での成績を選手基準の一つとしています。高1、2年生の時に実績を残した生徒が受験者にいなければ、実技試験のみで合格を決めることになる。受験する側にとっては「2発勝負」という重圧はありますが、皆平等にチャンスがあると思います。

■指導者としての財産

私は高校3年の夏、インターハイの体操競技で決勝に進出しましたが、直前の事故によるけがでひのき舞台を降りました。理不尽な状況でしたけれど、受け入れざるを得ませんでした。周りの人はとても心配してくれましたが、自分は意外とあっけらかんとしていたものです。

そして、何十年も経った今、苦しい思い出は指導者としての財産になっています。試練は「選手に伝えられる重要な経験の一つ」なのです。皆さん「コロナ禍の体験」を今後の人生に生かしてください。

除菌を徹底、座席は指定

拍手のみで応援

2020年6月20日、県営富山球場に球音が戻ってきた。コロナ渦で延期されていたルートインBCリーグが約2か月遅れて開幕したのだ。しかも、有観客での試合とあって、注目を集めた。富山GRNサンダーバーズ―石川ミリオンスターズの開幕戦を訪問した。

文・写真 土田 由香里、写真 富山GRNサンダーバーズ



富山GRNサンダーバーズが有観客試合



●徹底した対策

球場に着いたのは午前11時半ごろ。球場の外周には、ファンの姿がすでにあっただ。試合開始は午後1時。開門は通常、プレーボールの1時間半前だが、この日は午前11時だった。チケット購入前に検温し、感染が判明した場合に備えて追跡のため、入場者の連絡先の記入を求められた。入場に際しては、アルコール消毒し、間隔を空けることが求められた。

スタンドでもソーシャルディスタンスを確保するため、着席してもよい場所にシールが貼られていた。前日に、スタッフと選手が着席シールを貼ったとのこと。大声を出したり、鳴り物を使ったりしての応援は自粛。これにより、通常ならスタンドの一角に固まって応援するファンが、広がって静かに観戦した。

●有観客試合への挑戦

前日にはNPBが開幕していたが、無観客試合だった。他のスポーツを含め、6月20日の時点で、観客を入れてプロスポーツが実施されたのは、富山―石川戦だけだったと思われる。勇気ある決断だった。

富山県では、「全国的な移動を伴うプロスポーツについては、無観客で開催可能」としていたが、球団は富山県との話し合いを進め、対戦相手が隣県・石川のチームであることもあり、有観客

での開催にこぎつけた。スタッフは階段の手すりを1時間ごとに消毒。飲食ブースを出さないことで行列をつくらせないなど、徹底して「3密」になるのを避けた。

●新しい観戦スタイル

ファンの応援は拍手だけとなったが、ファインプレーに、惜みない拍手が送られた。選手たちの声、捕球の音、打球の音が響くのは新鮮。シンプルに野球を楽しんだ。富山のプロスポーツ観戦が好きという富山市の男性は「やっぱり会場で観るのは楽しい。ほかのスポーツも早く観客を入れてやってほしい」と話した。

●開幕戦白星スタート

試合は石川に4点リードされた二回、門屋龍征選手がレフトスタンドへ3点本塁打を打ち1点差に。四回途中から登板した武田康平投手が緩急をつけた投球を見せた。五回には、門屋の送りバント、敵失から2点を奪い逆転。コロナ対策として設けられた2時間45分の制限時間を越えたため、最終回となった八回、石川に同点とされるも、後藤大葵選手のライト線適時打で6―5とし、サヨナラ勝ちを収めた。

今季から采配を振るう田畑二也監督は「最後まであきらめないで戦った結果だ。ファンから見られていることは大事。緊張感を保ちながら59試合を戦いたい」と話した。

●特別体制での試合運営

BCリーグは今季、リーグを3地区区制にし、極力長距離移動を軽減することなどを踏まえ、近隣球団との対戦を優先したスケジュールとなった。富山は、石川、福井、滋賀と西地区で対戦する。また、試合時間短縮のため、七回以降2時間45分を超えて新しいイニングに入らず、延長戦は行わない。ダブルヘッダーもあるという。



他球団に先駆けて有観客で試合を実施した富山の永森茂社長は「独立リーグだからできるフットワークの軽さ、行動力で挑戦していきたい」と話した。

徹底して感染防止対策を

BCリーグ・村山哲二代表

緊急事態宣言期間中は、開幕のこの日を迎えるイメージが全くできていませんでした。今シーズンは開催できないかもしれないと考えていたくらいです。

5月下旬に、6月中旬には県外移動が解除になるという目途が立ったことから、この日を目指して準備を進めてきました。富山県が有観客での開催を決定してくれたこと、素晴らしい画期的でした。それだけに、リーグ全体として徹底して感染防止対策を図っています。

実際、球場に足を運んでみて、スタンドにファンがいてくれることが何より嬉しいです。皆さんのおかげで開催できています。



木の魅力を生かした家づくりなら、ヤマヒデホームにお任せください。

ヤマヒデホーム 株式会社 山秀木材

0120-707-714 <https://www.yamahidehome.co.jp>
 本社 〒932-0212 富山県南砺市山斐188 トナミオフィス 〒939-1362 富山県砺波市鍋島129-3
 TEL(0763)82-0428 FAX(0763)82-6670 TEL(0763)32-7077 FAX(0763)32-7078

過酷な連戦

チーム力で挑む

文 赤壁逸朗
写真 カターレ富山

新型コロナウイルスの影響で開幕が遅れていたJ3リーグが6月27日から始まり、カターレ富山の戦いがスタートした。日程の過密化などコロナ禍の影響は小さくないが、チーム全員の力を結集してJ3制覇へ突き進む。



第2節・YS横浜戦を大逆転で制して喜び合う選手たち

7月15日の第4節・秋田戦でカターレ富山は、4日前に行われた前節・沼津戦からスターティングメンバー11人をすべて入れ替えて臨んだ。疲労のないフレッシュな選手たちで戦ったほうがよいと考えた安達亮監督の大胆な策だった。

今季のJ3は新型コロナウイルスの影響で開幕が約4カ月遅れた。12月20日の最終節までに試合を消化するように日程が組み直され、約1週間で3試合を行う連戦が8回行われる。昨年は週1試合ペースだったものが、今季は全34試合のうち16試合を中2〜4日の短いインターバルで戦わなければならない。これをどう乗り切るかは上位を争ううえでのポイントになるとみられている。

■選手層の厚さが強い

連戦への対応はチーム事情や各監督の考えによって異なる。開幕して最初の連戦となったこの試合で、カターレが対戦した秋田は対照的に前節と同じ11人を先発に起用した。開幕3連勝で首位だった秋田の吉田謙監督は「勢いに乗っているチームを崩さずに戦おうと考えた」と言う。一方のカターレは前節の沼津戦で敗れており、安達監督が「(終了間際に失点する)非常に悔しい負け方だった。短い日数で頭を切り替えるのは難しいし、やはり負けると疲れもとれにくい」とし、まったく異なる顔ぶれを先発させた。

各チームが前節から中3日の第5節でスタメンを何人変えたのかをみると、八戸が6人、長野、G大阪U23、C大阪U23が5人、今治が4人を入れ替えたが、その他は3人以下だった。総入れ替えし



スタメンを総入れ替えした第4節・秋田戦は惜敗したものの健闘して選手層の厚さを示した

たカターレの起用法がひと際目を引く。安達監督は新たな日程が発表された時から「新戦力の加入や若手の成長によって昨季に比べて選手層がかなり厚くなった。我々の強みになる。数多くの選手を起用し、全員の力で勝ち抜きたい」と話していた。最初の連戦でその姿勢を鮮明に示した。

■首位に惜敗も手応え

疲れの溜まっていないコンディションの良い選手を起用することで目前の試合に勝利確率を高めるのが目的だが、狙いはそれだけではない。選手の消耗を避けてケガの予防につなげるほか、連戦だと軽くなりがちなトレーニングの質と量を維持し、出場機会を与えることで選手の切磋琢磨を促すなど中長期的な効果にも期待している。

秋田戦ではJリーグ初出場・初先発だっ

た2人を含め7人が今季初先発だったが、首位のチームに対して互角以上の戦いを演じ、相手の2倍となる14本のシュートを放った。終盤に失点して勝点は逃したが、FW武颯は「メンバーが大きく変わっても良いサッカーはできた。チーム力をさらに高めていける可能性があるということだ」と思う。負けたからといって下を向く必要はない」と話した。

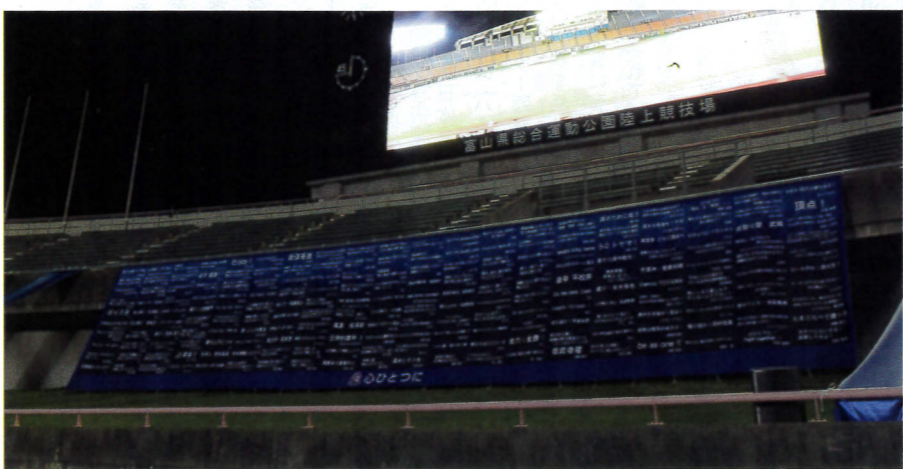
その4日後に行われた第6節・岩手戦では再び先発9人を入れ替え、1週間前の第4節で先発した選手を中心に戦って

4-1で快勝。2得点を挙げたMF花井聖は「2連敗した後で、優勝を狙ううえで絶対に負けられない試合だった。勝ててホッとしている」と話した。最初の3連戦は1勝2敗に終わったが、チームのほぼ全員が出場し、ルーキーで19歳のFW宮城天が自身Jリーグ初得点を決めるなど収穫があった。他チームとは「線を画すこの試みも「圧倒的にJ3を制覇する」という野望への布石だ。どのような成果につながっていくのか注目したい。

■決定力は昨年以上か

カターレは開幕からの5試合を終えて2勝1分2敗の9位につけた。昨季の1勝3分1敗・11位と同程度のスタートになった。総得点は9で総失点は7(昨季4得点・5失点)。第2節・YS横浜戦で3点差を後半だけでひっくり返し4-3で初勝利を取めた。岩手戦でも4得点を挙げており、看板の攻撃は昨年を上回る決定力、爆発力を披露している。武、大野耀平、戸高弘貴ら期待の高かった新加入のアタッカーが早々と移籍後初ゴールを決めているのも明るい材料だ。

しかし、第3、4節は守りを固める相手に手こずり無得点に終わっている。第1節・長野戦や第3節・沼津戦はミス絡みの失点で勝点を逃しており、守備面でも課題が見えてきた。安達監督は「得点を決める」「失点しない」というゴール前での攻撃と守備の力がどちらもまだ少し足りない。「点は取れるだろう」ではなく、「絶対に3点は取れる」と確信が持てるぐらいにまで高めていきたい」と話している。



リモートマッチ(無観客試合)だった第1節・長野戦ではサポーターからのメッセージを記したフラッグがゴール裏に掲げられた

スポーツ伝言板

ここでは、県内の身近なスポーツの話題を紹介していきます！
あわせて皆様からの情報提供もお待ちしておりますので、詳しくは左ページ下記をご覧ください。

コロナ禍時代のチームマネージメント ～ 行動指針を作ってみよう ～

特別寄稿・歯科医師 米原啓介

日本では新型コロナウイルス感染の第2波が過ぎました。みなさんの信実さと努力があつてこそ世界的に評価されるウイルスの抑え込みが可能になったのだと思います。その経験を振り返りつつ、感染症がどのように推移したのか考えてみましょう。

感染症が流行していくとき、感染者数はいくつかの段階（フェーズ）で推移していくと考えられています。

「発生早期」：ぼつぼつと感染者が報告される。

「拡大期」：1日に数人ずつ感染者が増えるようにも増える。

「まん延期」：感染者が一気に増える。

「回復期」：感染者がピークを超えて段々減ってくる。

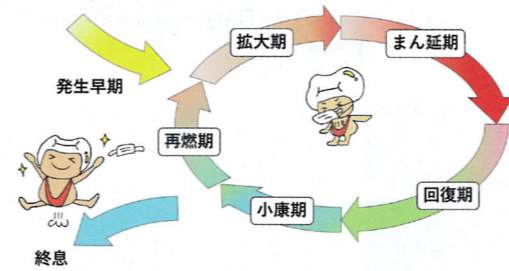
「小康期」：感染者の報告なし又はごく少数。

「再燃期」：感染者が再度出現し拡大期へ移行する。

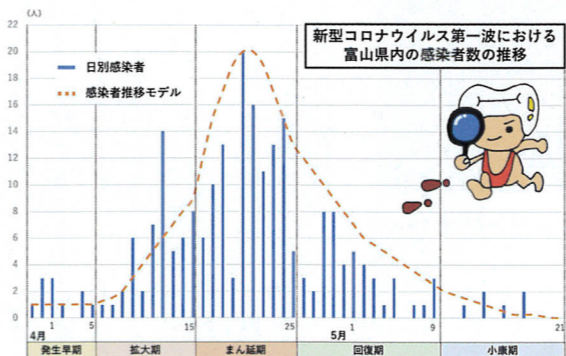
このフェーズの動きを予測し行動、準備をすることで、感染拡大を小さくしたり、遅くしたりすることができるようになります。今回の提案は、将来やってくる感染の波に備え「行動指針」を作る、ということ。例としてあるスキーチームで作られた指針を示します。感染者の拡大などで感染状況のフェーズが移行したとき、チーム内での具体的な活動の指針を作っておくと、感染が安定しているフェーズでは基本的な感染対策を講じつつもしっかりスポーツに取り組み、感染が拡大期に入ったときは拡大防止を優先事項とし活動を最小限に絞るといった活動のメリハリをつけることができるようになります。また万が一、チーム内から感染者が出たときにチーム内での感染対策を講じていたのか

示す根拠にもなりますので、このような情報を外部に発信しておくことが、将来今までの通りの活動をしていくために役に立つかもしれません。明るいスポーツライフを取り戻すため華麗に波を乗り越えましょう！

※参考資料に記した日本スポーツ振興センターHP内の「ハイパフォーマンススポーツセンター臨時特設サイト」にはコロナ禍を乗り越えるためのスポーツ関係者に有用な情報がたくさん掲載されています。ぜひ活用ください。



■参考資料・1



■参考資料・2

- 参考資料・1
<https://www.jpnsport.go.jp/hpsc/> 『日本スポーツ振興センターホームページ ハイパフォーマンススポーツセンター』
- 参考資料・2
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/infuleza/index.html 『厚生労働省ホームページ インフルエンザ (総合ページ)』
- 参考資料・3
<https://www.teamusa.org/-/media/583E88D9C2514F52816F8FC12F6FCA82.ashx> [United States Olympic & Paralympic Committee. USOPC Return to Training Considerations.]

With コロナ 行動指針

拡げない 大切なものを守るため

1週間の県内新規感染者数

- 「発生早期」 0～10人程度
 - ・マスク着用、消毒、換気の徹底・練習人数の制限
 - ・人との間隔2m・流行地への移動はしない
- 「拡大期」 10～45人程度
 - ・最小限の練習(個人トレーニング)
 - ・県外への移動を制限
- 「まん延期」 45人以上
 - ・自宅でのトレーニング・オンラインでのチーム活動
 - ・夢や目標を確認し共有・メンタルチェック
- 「回復期」 まん延期のピークから減少が認められた時点
 - ・練習の再開時期や内容を検討
 - ・活動再開に対するモチベーションを向上させる工夫
- 「小康期」 10人以下
 - ・練習再開時の体力チェック
 - ・段階的に通常練習へ

■参考資料・3

アランマーレに新人7人加入

射水市の女子ハンドボールチームプレステージ・インターナショナルアランマーレに今季、個性豊かな7人が新たに加入した。

順に紹介すると、年代別日本代表、ビーチハンドボール日本代表を経験したCB行本朱里（日本体育大卒）は周りとのコンビネーションで得点を目指す司令塔。年代別日本代表のLB仲間結香（日本女子体育大卒）はバリエーション豊富なロングシュートが魅力である。左サイドには、高い確率での得点が持ち味の佐藤美月（桐蔭横浜大卒）、右サイドには前崎有里（東京女子体育大卒）が加わった。大学時代関西代表のRB切通夢（天理大卒）は小柄ながらもスピードとテクニックで得点を挙げる。GKの鈴木梨美（東京女子体育大卒）はノーマークシュート阻止、速攻へのスローインを得意とする。マネージャーの内山愛菜（桐蔭横浜大卒）は、高校まではプレイヤーで、選手の気持ちを理解する裏方としてチームを支える。

選手層に厚みが増したアランマーレは、8月下旬に開幕予定の日本ハンドボールリーグで昨シーズンの6位を上回るプレーオフ進出（4位以上）を目指す。



Truthの発行について

NPO法人「Tスポとやま」

NPO法人「Tスポとやま」は2020年東京五輪・パラリンピック開催にむけて富山のスポーツ振興を目的に創設、2015年春以降、富山初のスポーツマガジン「Truth（トゥルース…真実の意味）」を年4回発行しており、それが現在も活動の中心です。

ただ、富山のスポーツを応援するメディアとして、今後とも育ててくださることを願っています。

コロナ禍の爪痕は大きく、今後も状況は変化していくと思いますが、スポーツが皆様とともにあり、幸せをもたらすことを願っています。

2020年7月吉日
NPO法人 Tスポとやま スタッフ一同

5月29日、2020年度の総会を行い席上、五輪・パラリンピックの1年延期を踏まえ、中止された場合にどう対応するかも含めて話し合った結果、何があっても2020年度末まで活動を継続、つまり21年冬号までは発行することを確認いたしました。同年春号以降については、東京五輪・パラリンピックの開催状況も踏まえて検討したいと考えています。

2020年、中・高校生は全国大会がなくなり、目標見失っているかもしれません。そういった若きアスリートにエールを送るべく、「Truth」の編集作業に当たっていきたくと思っています。つきましては、引き続き2020年も皆様のご指導・ご支援をい

県内のスポーツ情報をお待ちしております

富山発のスポーツメディア

Truth

Find us on Facebook
Tスポとやま Truth
<https://www.facebook.com/tspo.truth>



Tスポとやま

「Truth」秋号掲載ニュースの締め切りは2020年9月末

原稿・写真(画像)は左記メールアドレスまで、よろしくお願ひします。なお、体裁に合せたリライトは編集部でさせていただきます、ゲラチェックはありません。

・Tスポとやまメール

nisenmen@tspotoyama.com

【法人会員】

学校法人荒井学園、タイセイツアーズ、JUMP MARUYAMA、高岡金網、日伸精機、ホテルよし原、富山技販、五省会 西能病院、KANAYA、ジャストドゥイット、ヤマヒデホーム、前川歯科クリニック、けやきひふ科、高岡スポーツユナイテッド、ベースボールハウススタジアム、榊原工業、第一交易、根塚整形外科・スポーツクリニック、一般社団法人パレススポーツクラブ、バイエルンスポーツ、三進堂、千山道場、NPO法人富山アイススポーツクラブ
(順不同)

【個人会員】

夏野義一、東軒一虎、面谷太志、嶋田利隆、上田昌寛、北井誠、谷内浩仁、尾畑達彦/美奈、田村勉、南部政樹、秀永倫明、吉野栄樹、中田憲昭、大家芳夫、松井洋、松本裕典、大谷由里子、南雲公子、谷崎文保、坂本博志、野沢紀子、橋和徳
(敬称略、順不同)

【編集後記】

・ウイズコロナの時代にスポーツの未来をどう描くのか。次号では、日本のアリーナスポーツをけん引するBリーグのチェアマンに就任した島田慎二氏に話を伺い、記事として掲載する予定です。楽しみにしてください。(松井)

・Jリーグでは試合後の取材がインターネット会議システムを使って行われています。遠隔地からも参加できる便利さがある反面、現場に足を運んでいながらもじかに話を聞けないのはもどかしく、もの足りなさも少し感じます。ウイルスが制圧され、以前のようなかたちに早く戻ってほしいと願うばかりです。(赤壁)

・コロナ禍でなかなか思うようにいかない時もスポーツは元気に、前向きにさせてくれるパワーがあると感じました。プレーする側も、観る側もお互いに求めていることで、必要としていること。安心してスポーツを楽しめるように、早く戻ってほしいですね。(土田)

・スポーツ少年団の現場では、新型コロナウイルスの影響から新入部員を募る体験会等が開催できずにいるところが多いように感じられます。活動制限が多い中、再開した目の前の取り組みに精一杯というのが現状です。スポーツ競技人口の低下に拍車がかかる危機感とも当面の間は戦っていかねばなりません。(中沖)

・富山大学人間発達科学部の佐伯聡史准教授の「コロナ禍の体験を今後の人生に生かしてください」という言葉、多くのアスリートに届いてほしいです。それにしてもマスクを着用してのスポーツは、しんどい。暑さ対策や水分補給、注意しながら居合道に取り組んでいます。(若林)

NPO法人 Tスポとやま 富山初のスポーツマガジン「Truth」発行・運営

TEL:080-3461-5959 E-mail:nisennen@tspotoyama.com

HP : <http://tspotoyama.com/>

Facebook : <https://www.facebook.com/tspo.truth>

顧問: 田中一郎

STAFF: 赤壁逸朗/金森正晃/久留健太郎/小林永/坂野上満/土田由香里/中沖紘一/永森茂/松井克仁/若林朋子

DESIGN: glic株式会社

Truth 秋号は 2020年10月下旬発行予定